

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育専門ゼミ I [Professional Seminar in Child Education I]			実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
科目コード	750114	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	本田和也			学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	<p>本授業は、特別支援教育・保育を専門的に研究していくための基礎的な力を養うことを目的とする。文献や資料の収集や整理などを通して、情報活用方法を学ぶ。また、研究テーマに沿った先行文献と出会い、要旨まとめ、質疑応答を通して、研究テーマを探求する力を学ぶ。学生自ら課題を発見し、研究テーマに沿った課題の解決に向けて、調査および文献研究を進め、さらに探求する力を養う。</p>						
関連する科目	事前に、子ども教育プレゼミを履修しておくこと						
授業の進め方と方法	基本的に、演習形式の授業を展開します。前半は、各自の関心のある研究テーマに沿った課題として出された先行文献等の要旨のまとめを行い、全体で発表し、質疑応答を通して、多角的に考察する力を養う。						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション(自己紹介および研究の方向性の確認)  第2回：各自の研究テーマの要旨発表および質疑応答  第3回：各自の研究テーマに沿った課題文献検討  第4回：各自の課題文献の要旨まとめと質疑応答①  第5回：各自の課題文献の要旨まとめと質疑応答②  第6回：各自の課題文献の要旨まとめと質疑応答③  第7回：各自の課題文献の要旨まとめと質疑応答④  第8回：中間まとめ  第9回：各自の研究テーマの再確認  第10回：各自の研究テーマに基づいた課題設定①  第11回：各自の研究テーマに基づいた課題設定②  第12回：先行研究や先行文献の収集および整理  第13回：先行研究や先行文献の収集および整理  第14回：各自の研究テーマに沿った報告と質疑応答①  第15回：各自の研究テーマに沿った報告と質疑応答②</p>						
授業の到達目標	先行文献等を丁寧に読み、要旨をまとめ、報告することで、論文作成の一連の流れを学ぶ。また、2年次までに身に付けた文献の読み方、発表や討論の仕方、レポートのまとめ方等の力を生かし、事実に基づいて自発的に探究する力を付ける。						
授業時間外の学修	各自、発表の際は、要旨の作成に加え質疑応答に対応するため、課題先行論文等を熟読玩味して臨むこととする。また、興味関心のある研究テーマを設定し、課題と出会うために、自ら率先して論文を読み深めていくこととする。						
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。	評価方法		討論や文献・情報収集への取り組みや発表などを総合的に評価する。			
テキスト	特になし						
参考書	必要に応じて図書、資料などを紹介する						
備考							

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育専門ゼミ I [Professional Seminar in Child Education I]			実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
科目コード	750114	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	宮内 孝			学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	<p>この授業は、これらを通して研究に関する手法を身につけるとともに、プレゼンテーション能力の向上やクリティカル思考の習得を目指していくなかで課題探究能力の向上をはかるとともに卒業研究の準備をすることが目的です。子どもの運動に関する課題について、それぞれの学生がテーマを決め、それに合った文献や資料を収集してまとめ、発表・討論を行います。</p> <p>授業者は、小学校教諭として体育授業に取り組んできました。この実践を通して得た知見を、学生が設定する子どもの運動に関する課題解決指導に活用して、本授業の学修が深められるようにします。</p>						
関連する科目	子ども教育ブレゼミ						
授業の進め方と方法	運動指導理論や具体例について、実技も交えながら討論します。その後は興味のあるテーマを設定して、そのテーマについてのレポート作成するための討論を行います。また、チャレンジ運動教室での指導計画・実践・振り返りと関連付けながら、授業を行います。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>子どもの運動の発達</li> <li>運動指導理論 運動構造</li> <li>運動指導理論 運動習熟過程</li> <li>運動指導具体例 器械運動</li> <li>運動指導具体例 器械運動</li> <li>運動指導具体例 陸上運動</li> <li>運動指導具体例 ボール運動</li> <li>運動指導具体例 ボール運動</li> <li>運動指導具体例 陸上運動</li> </ol> <p>幼児期から児童期の動きの発達過程や運動構造・動きの習熟位相等の理論を理解した上で、運動指導のあり方について考えます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>卒業論文研究 研究計画の立て方</li> <li>卒業論文研究 テーマ設定や検証方法の仕方</li> <li>各自の問題関心に基づいた課題設定</li> <li>各自の問題関心に基づいた課題についての協議</li> <li>各自の課題に沿った報告と質疑応答(1)</li> <li>各自の課題に沿った報告と質疑応答(2)</li> </ol> <p>卒業研究に向けて、研究の進め方や自己のテーマ設定について考えます。</p>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>運動指導の概観を理解し、その理論に基づいた教材と指導ができる。</li> <li>文献や資料を丁寧に読み、レジュメとして整理し、報告できる。</li> <li>自己の課題を設定して、引用を用いながらレポートにまとめることができる。</li> </ol>						
授業時間外の学修	<p>授業前には、各自のゼミ研究に取り組むための文献・先行実践についてレジュメ・発表のためのプレゼンを作成します。</p> <p>授業後は、自己の学びをレポートにまとめます。</p>						
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行います。	評価方法		レジュメ 30点 レポート30点 プレゼンテーション 40点			
テキスト	必要に応じて資料を配付します。						
参考書	三木四郎「新しい体育授業の運動学」 明和出版 2008 (2000円+税) 白石豊・広瀬仁美「どの子どものびる運動神経」かもがわ出版 2009 (1900円+税)						
備考							

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科		
科目名称 [英語名称]	子ども教育専門ゼミⅠ [Professional Seminar in Child Education I]			実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング	○	
科目コード	750114	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	遠藤 晃			学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	世界的な取り組みとして注目されている「ESD(Education for Sustainable Development: 持続可能な発展のための教育)」は、知識を持つだけでなく多様な知識を関連づけて活用し、ひとり一人が主体的且つ協働的に課題を解決していく力の育成を目指している。ESDの視点を持った自然を対象とするテーマ探求型の環境教育は、答えが1つに限らず、解決のプロセスも様々となるため、子ども達に、今求められる「確かな学力」を育む効果が期待される。このゼミナールでは、「なぜ？」をキーワードに、大学や地域の自然環境を対象としたフィールドワークに学生が主体的に取組み、ESDの視点を持った環境教育の指導に必要な調査・研究手法の習得を図る。また、データ解析、文献の引用法、まとめ、プレゼンテーションの方法についても確認する。						
関連する科目	子ども教育専門ゼミⅡ、入門ゼミ、プレゼミ						
授業の進め方と方法	卒業研究に向けて、テーマに沿ったレジュメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。						
授業計画	第1回: オリエンテーション 第2回: 課題設定: 環境教育の現状と課題調査(1) 第3回: 課題設定: 環境教育の現状と課題調査(2) 第4回: 報告と討論: 環境教育の現状と課題について報告(1) 第5回: 報告と討論: 環境教育の現状と課題について報告(2) 第6回: 報告と討論: 環境教育の現状と課題について報告(3) 第7回: 中間まとめ 第8回: 各自の問題関心の確認 第9回: 各自の問題関心に基づいた課題設定(1) 第10回: 各自の問題関心に基づいた課題設定(2) 第11回: 先行研究や基礎文献の収集 第12回: 先行研究や基礎文献の整理 第13回: 各自の課題に沿った報告と質疑応答(1) 第14回: 各自の課題に沿った報告と質疑応答(2) 第15回: 各自の課題に沿った報告と質疑応答(3)						
授業の到達目標	文献や資料を丁寧に読み、レジュメとして整理し、報告することについて一連の流れを身につける。また、2年次までに身に付けた文献の読み方、発表や討論の仕方、レポートのまとめ方等の力を生かし、事実に基づいて自らの頭で考える力をつける。						
授業時間外の学修	毎回の講義終了後に、講義内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめ、文章として表現するレポートを課す(1時間程度)。また、終了時に提示される課題について、次回の講義までに準備をしていく(1時間程度)。課題については担当教員に随時相談すること。						
課題に対する フィードバック	課題については、ゼミの中で解説する。	評価方法	討論や文献・情報収集への取り組み姿勢・態度およびレポートや報告の内容等で評価する。なお、レポートについては、講義内容をまとめた状態を最低限のレベルとし、理解に基づく活用、さらに応用といった、知識を基にして、様々なことと関連づけて思考・判断したことが表現できているかどうかを評価する。				
テキスト	とくに定めず、必要に応じて資料を配布する。						
参考書							
備考							

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育専門ゼミ I [Professional Seminar in Child Education I]			実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750114	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	若宮 邦彦			学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	この授業の目的は社会福祉の観点から現代の社会における子どもや家族が抱える問題や課題、児童福祉の様々な援助についての学びを深めることです。【態度・志向性の育成】子どもの成長や発達を援助していくためには、子ども自身を理解するのみではなく、家庭環境や地域社会について理解しておくことが重要となります。このゼミでは、現代の社会における子どもや家族が抱える問題や課題、児童福祉の様々な援助に関する文献を学生自身が収集し、内容を理解し、発表・討論を行います。【生涯学習力の育成】また、フィールドワークを活用し、学生自身が児童福祉の現状や課題についてより深く考えること、また児童福祉の研究方法について理解し、研究の実施・まとめ方・発表の方法について学ぶことにより課題探求能力を高めていきます。						
関連する科目	社会福祉、社会的養護、相談援助を履修しておくことが望ましい。						
授業の進め方と方法	アクティブラーニング型授業を展開します。学生自身が児童福祉の現状や課題について、より深く考察するための課題探究能力を高めます。【知識・理論の修得】また、クライアントとの有効な援助関係の成立を基に子育て支援、権利擁護を主眼とした保育実践におけるソーシャルワーク理論とスキルを習得します。【姿勢・志向性の育成】さらに事例検討やフィールドワークを通じ、理論知を実践知に関連付けながら理解します。【自己管理能力・生涯学習力】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 各自の関心の整理と共有化</li> <li>3. 各自の関心の整理と文献検索</li> <li>4. 共有文献の設定</li> <li>5. 報告と討論①(フィールドワークを含む)</li> <li>6. 報告と討論②</li> <li>7. 報告と討論③</li> <li>8. 報告と討論④</li> <li>9. ふりかえりと中間のまとめ</li> <li>10. 各自の問題意識の整理と課題の検討</li> <li>11. 文献、先行研究の収集と整理①</li> <li>12. 文献、先行研究の収集と整理②</li> <li>13. 各自の課題に沿った報告と討論①</li> <li>14. 各自の課題に沿った報告と討論②</li> <li>15. 最終プレゼンテーション</li> </ol>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉学を主とした学術的思考過程をふまえたリテラシー能力の向上。【職業知識・技能の育成】</li> <li>2. フィールドワークを通じ、自らの問題意識の明確化、課題解決の視点を学ぶ。【姿勢・志向性の育成】</li> </ol>						
授業時間外の学修	学生自身が研究方法について理解し、研究の実施・まとめ方・発表の方法について学び課題探求能力を高めるために、配布資料、課題についての予習・復習、各メンバーとのディスカッション(サブ・ゼミ)を20分程度行うことを必須とする。						
課題に対するフィードバック	レポート、プレゼンテーションは評価後、返却及び解説をします。			評価方法	学習意欲70点、レポート提出20点、ワークシヨップ等10点		
テキスト	なし						
参考書	『児童家庭福祉の成立と課題』 井村圭壯・相澤譲治 編著 勁草書房『保育と社会的養護』 井村圭壯・相澤譲治 編著						
備考							

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科	実務経験 教員担当	
科目名称 [英語名称]	子ども教育専門ゼミ I [Professional Seminar in Child Education I]			アクティブ ラーニング			
科目コード	750114	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	早川 純子			学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	<p>この演習では、専門分野の文献の読解を通して学術論文の論述形式を習得するとともに、課題探求能力を高めながら最終的に具体的な卒業研究のテーマを見出すことを目的とする。</p> <p>前期では、音楽教育に関する英語論文の輪読を行う。後期は、まず研究論文レビューを一人2回行う。研究論文は、『全国大学音楽教育学会 研究紀要』および『音楽教育学』等の学会誌、また各自で関心のあるテーマで文献検索サイトから選び、所定の形式に基づいてレジメを作成して発表する。発表に基づく討議を通して、問題を多様な視点から捉え明確化し、問題解決の方法を検討していく。以上のことを通して、問題設定の仕方、議論の進め方、音楽素材の実証的で多面的な分析の方法を習得する。最後の2回で、卒業研究の研究テーマ・キーワード・文献表・アブストラクト・章立てを考えて発表し、執筆に入る前の研究計画を立てる。また、適宜楽器演奏のレッスンも行う。</p>						
関連する科目	1年次に「子ども育入門ゼミ」を、2年次に「子ども教育プレゼミ」を履修しておくこと。						
授業の進め方と方法	各回のテーマに関する課題の評価及び指導を「演習形式」で行う。毎回、課題の提示・発表・提出を行い、参加者全員でのディスカッションを行う。						
授業計画	<p>第1回: 英語文献講読① 第2回: 英語文献講読② 第3回: 英語文献講読③ 第4回: 楽器演奏レッスン 第5回: 英語文献講読④ 第6回: 英語文献講読⑤ 第7回: 英語文献講読⑥ 日本の音楽科教育に関する成果と課題について外国語文献を通して理解する</p> <p>第8回: 学術論文レビュー① 第9回: 4年生 卒業研究中間発表参加 第10回: 学術論文レビュー② 第11回: 学術論文レビュー③ 第12回: 学術論文レビュー④ 文献レビューを通して様々なテーマやアプローチを知り、卒業研究のテーマを絞っていく</p> <p>第13回: 4年生 卒業研究審査会参加 第14回: 卒業研究テーマ・キーワード・文献表 発表 第15回: 卒業研究アブストラクト・章立て 発表 4年次にすぐ文献調査に入ることができるよう、卒業研究の計画を立てる。</p>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献講読に習熟する。</li> <li>2. 問題設定と課題探求の方法に習熟する。</li> <li>3. 楽曲分析とフィールドワークの手法を習得する。</li> <li>4. プレゼンテーションスキルを向上させる。</li> </ol>						
授業時間外の学修	発表の際は、レジメの作成に加え質疑応答に対応するため、各章を熟読玩味して臨まなければならない。十分余裕を持って準備すること。						
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。	評価方法		参加態度: 60%、発表: 40%			
テキスト	講読、レビューする文献は随時配布する。						
参考書	随時提示する。						
備考							

Minami Kyushu University Syllabus								
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス		開設学科	子ども教育学科		
科目名称 [英語名称]	子ども教育専門ゼミⅠ [Professional Seminar in Child Education I]				実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750114	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次	
教員氏名	趙 雪梅				学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	ここでは、新学習指導要領で強調された数学的活動の観点から、子どもの遊びと数学的内容との関わりを追求するための教員の数学リテラシーの育成を目指したゼミとする。数学的な内容に関わる子どもの遊びを調べることで、そのことを文献をもとに由来や歴史、諸外国での関連する内容を調べて発表し、それがどのような数学的概念を形成するのかを議論し、それらをもとに数学的活動の教材を作り、実践し、課題探求能力を高めていく。							
関連する科目	履修後は、子ども教育専門ゼミⅡを履修することが望ましい。							
授業の進め方と方法	文献調査から課題を見つけ、再び文献調査やグループディスカッションから積み重ねて解決方法を検討する							
授業計画	第1回:オリエンテーション-問題関心の共有- 第2回:問題関心に基づいた文献の選択 第3回:報告と討論(1) 第4回:報告と討論(2) 第5回:報告と討論(3) 第6回:報告と討論(4) 第7回:報告と討論(5) 第8回:中間まとめ 第9回:各自の問題関心の確認 第10回:各自の問題関心に基づいた教材の作成(1) 第11回:各自の問題関心に基づいた教材の作成(2) 第12回:幼稚園、小学校などでの実践(1) 第13回:実践についての討論と省察(1) 第14回:幼稚園、小学校などでの実践(2) 第15回:実践についての討論と省察(2)							
授業の到達目標	文献や資料を丁寧に調べ、レジュメとして整理し、報告し討論して、教材の作成につなげていく将来の教員として数学リテラシーを身につける。また、2年次までに身に付けた発表や討論の仕方、PBLの方法を確実なものとしていく。							
授業時間外の学修	提示された課題について調べ、資料をまとめて授業に臨む。授業後は、自己の学び・考え・リフレクションをレポートにまとめる。							
課題に対する フィードバック	段階的なレポートを評価し、アドバイスする	評価方法			討論や文献・情報収集への取り組み、ゼミの発表や教材の作成、その実践等で総合的に評価する。			
テキスト	第1・2回でゼミ参加者全員で輪読文献を話し合いによって決定する。							
参考書	必要に応じて、関連文献をその都度紹介する。 小学校学習指導要領(算数編) 小学校教科書(算数) 黒木哲徳著『なっとくする数学記号』講談社・『入門算数学』日本評論社							
備考								

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科		
科目名称 [英語名称]	子ども教育専門ゼミⅠ [Professional Seminar in Child Education I]			実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング	○	
科目コード	750114	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	金子 幸			学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	<p>本授業の目的は、保育・幼児教育についてさまざまな視点から資料を収集し、プレゼンテーションすることを通して、卒業研究の準備へとつなげていくことです。</p> <p>幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期だと言われています。保育の専門家として、子どもの成長にかかわる中で、どのような支援・援助が必要かについて考え、保育者の専門性について理解を深めていきます。また、小学校教育との円滑な接続のためにも、子どもの成長を連続的にとらえ、よりよい教育を創造するための、乳幼児の発達についても理解を深めることが大事です。</p> <p>そのために授業では、保育に対する各自の興味関心を基に資料を収集し、課題に取り組み、議論を通して学びを深めていきます。</p>						
関連する科目	「子ども教育プレゼミ」を事前に履修しておくこと。履修後は、「子ども教育専門ゼミⅡ」を履修すること。						
授業の進め方と方法	<p>毎回の授業にて、演習形式の授業を展開します。1回の授業の構成は以下の通りです。授業の前半は、各自の興味関心に沿った内容に関して取り組んできた課題に対して発表を行います。後半は、各自の発表内容に対し、全員で議論をし、保育について多角的に考察できる力を養います。最後に、各自の課題に対して評価を行い、次回の課題の設定をします。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーションー授業概要の説明 ゼミの進め方を理解し、各自の興味関心を探ります。</li> <li>2.各自の関心や問題意識についての確認 各自の興味関心や問題意識についてまとめたものを発表し合います。</li> <li>3.課題に対する文献検索方法 各自の課題に沿った文献の検索方法について学びます。</li> <li>4.先行研究の調査・まとめ 各自の課題に沿った論文を検索し、熟読してきたものを基に議論を行います。</li> <li>5.発表・討論内容の検討 グループディスカッションの内容を検討します。</li> <li>6.発表・討論 共通テーマを基に調べてきたことをグループディスカッションし、理解を深めます。</li> <li>7.中間まとめ 保育についてこれまでの内容を考察し、今後の計画を立てます。</li> <li>8.各自の課題決定 卒業研究に向けた各自の課題を整理します。</li> <li>9.各自の課題に沿った情報の収集ー自己収集 各自の課題に沿った論文・文献を検索し、紹介します。</li> <li>10.各自の課題に沿った情報の収集ー再検討 各自で収集した資料を基に卒業研究のテーマを再考します。</li> <li>11.各自の課題の調査報告ー図書館資料の収集</li> <li>12.各自の課題の調査報告ー論文資料の収集</li> <li>13.各自の課題の調査報告ー新聞・雑誌等の資料収集 各自の課題に沿った資料を収集し、レポートにまとめていきます。</li> <li>14.各自の課題の調査報告から見える新たな課題設定 作成したレポートを報告し、新たな課題を設定します。</li> <li>15.まとめー卒業研究に向けて 卒業研究のテーマを決定します。</li> </ol>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.保育者の専門性について理解する</li> <li>2.自らの課題に対する文献等、情報を収集する能力を身に付ける</li> <li>3.プレゼンテーション力を高める</li> </ol>						
授業時間外の学修	<p>毎回、指定されたテーマに沿った内容の文献・資料を収集し、授業内で発表が出来るようにまとめておくことを予習とします。</p> <p>授業で学んだ内容を振り返り、必要に応じて新たな文献・資料を収集しまとめること、次回の課題に積極的に取り組むことを復習とします。</p>						
課題に対するフィードバック	毎回の課題に対して、各自の発表後に評価を行います。	評価方法			以下の項目を基に評価します。 1)授業への積極的な取り組み・意欲 60点 2)課題提出 40点		
テキスト	必要に応じて適宜紹介します。						
参考書	必要に応じて適宜紹介します。						
備考							

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育専門ゼミⅠ [Professional Seminar in Child Education I]				実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング	○
科目コード	750114	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	福富 隆志				学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)	
授業概要	<p>教育は、学校だけに限らず、家庭や企業などあらゆる場で行われる。したがって、大部分の人は、教職に就くか否かに関わらず、将来的に教育に携わることになる。したがって、教育に関する何らかの問題点を発見し、適切に解決できる知識やスキルは必須だと言える。そこで本ゼミでは、主に心理学的な観点から、教育に関する何らかの問題を、適切な方法で解決できる知識とスキルを学ぶことをねらいとする。そのために、前半では教育心理学に関する基礎的な文献を読み、議論を通して理解を深める。後半では、主にグループでテーマを立て、問題を設定し、適切な方法を用いて結論を出し、考察をするという一連の研究活動を実践してもらう。</p>						
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育専門ゼミⅡを次年度に履修すること						
授業の進め方と方法	<p>1回の授業の基本的な構成は以下の通りである。  <b>【前半】</b>発表担当者が指定された文献の内容のまとめと論点を提示し、それらについて全員で議論する。  <b>【後半】</b>グループで一連の研究活動を進め、進捗を報告してフィードバックを受け、次回の活動への見通しを立てる。</p>						
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション  第2回:文献発表と議論(1)  第3回:文献発表と議論(2)  第4回:文献発表と議論(3)  第5回:文献発表と議論(4)  第6回:文献発表と議論(5)  第7回:文献発表と議論(6)  第8回:研究グループとテーマの決定  第9回:研究計画の作成(1):問題と目的  第10回:研究計画の作成(2):方法  第11回:中間報告  第12回:研究の実施(1):文献、データの収集  第13回:研究の実施(2):結果のまとめ  第14回:研究の実施(3):考察  第15回:研究成果の発表</p>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育心理学に関する文献の内容を、他者にもわかるようにまとめ、発表できる。</li> <li>2. 教育心理学に関する文献の内容について、実社会と関連した論点を提示できる。</li> <li>3. 議論を通じて、教育心理学についての理解を深め、実社会との関連を論じられる。</li> <li>4. 教育に関連する事象について、適切な構成(問題と目的、方法、結果、考察)の研究成果を発表できる。</li> </ol>						
授業時間外の学修	<p>[予習]指定した教科書から次回の発表範囲を事前に熟読し、次回の発表内容の概略を把握すると同時に、授業で必要となる資料作成を行うこと(1.5時間)  [復習]授業で学んだ内容を振り返り、要点を整理すること(1時間)、また授業終了時に示す課題に取り組み、必要な資料作成を行ったり、授業中に議論した内容に関して自分なりの考えをまとめておくこと(1.5時間)</p>						
課題に対するフィードバック	毎回の提出課題(発表資料など)は、授業時間に評価・解説を行う。	評価方法			発表やレポートの質、議論やグループ研究への参加の程度から総合的に判断する。 ①発表、レポート:50% ②議論、グループ研究への参加:50%		
テキスト	鹿毛雅治(編著)『モチベーションをまなぶ12の理論』金剛出版						
参考書	必要に応じて図書、資料を紹介する。						
備考							

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科		
科目名称 [英語名称]	子ども教育専門ゼミ I [Professional Seminar in Child Education I]			実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750114	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	園田 博一			学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	研究の方向性、興味・関心を大切に、具体的な取り組み内容を模索していく。保育・幼児教育、小学校教育に関する諸問題を吟味しながら課題研究のテーマを探る。実習等の現場で得た経験を重視し、分析、考察していく。個々の実践課題と、図画工作科で学修したことを生かした制作研究を進めていく。						
関連する科目	教科教育法(図画工作)、保育内容指導法(造形表現)、図画工作演習、子どもと手作り遊び						
授業の進め方と方法	研究の目的や方法について考えを進める。文献研究による理論的研究を学習していく。子どもの発達段階と造形表現とをいろいろな角度から検討していく。卒業研究に向けた各自のテーマを模索する。文献研究、資料収集を行い、ものつくりの背景や意味や歴史も研究の対象とする。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 自己紹介 方向性の確認 第2回：研究計画の検討と修正(1) 第3回：研究課題の収集と分析について 第4回：先行研究の情報収集と分析(1) 第5回：先行研究の情報収集と分析(2) 第6回：研究目的の文章化の検討、計画案の修正 第7回：研究構想に沿った研究推進 個別指導(1) 第8回：研究構想に沿った研究推進 個別指導(2) 第9回：研究構想に沿った研究推進 個別指導(3) 第10回：研究構想に沿った研究推進 個別指導(4) 第11回：研究構想に沿った研究推進 個別指導(5) 第12回：個人研究の制作内容の検討(1) 第13回：個人研究の制作内容の検討(2) 第14回：個人研究の制作内容の検討(3) 第15回：研究のまとめと次年度に向けた確認						
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究に対する積極性があり、主体的に参加する。</li> <li>・課題を発表、討論することで学習を共有する。</li> <li>・卒業研究に向けての研究構想を具体的に作成し、計画を推し進める。</li> </ul>						
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外においての様々な取り組み(各種ボランティア活動など)</li> <li>・制作研究では試行錯誤を繰り返し実践的製作を行う。</li> <li>・資料収集や文献研究を日常的に実践する。</li> </ul>						
課題に対する フィードバック	専門性や社会性、客観性を注視し、助言を行う。	評価方法		参加の姿勢、ゼミナール構成員であること の意識、課題の成果により総合的に判断する。			
テキスト	特になし						
参考書	参考文献、引用文献資料等、適宜紹介しながら研究推進する。						
備考							

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科	子ども教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育専門ゼミⅠ [Professional Seminar in Child Education I]				実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング	○
科目コード	750114	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	藤本 朋美				学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)	
授業概要	<p>この授業の目的は、「子ども教育専門ゼミⅡ」「卒業研究」に向けた準備段階として、自身の関心や問題意識を明確にし、研究方法を知ることです。</p> <p>これまで学んできた専門的知識やボランティア活動等で得た経験をもとに、特に幼児や児童のことばや文字、伝え合うこと等をテーマとして、自身の問題意識とそれに対する自身の立場を明確にします。</p> <p>自身の問題意識を手がかりに①課題設定、②文献の収集・整理と分析、③レジュメ作成、④発表、⑤メンバー間での討論を通して、課題探求力の向上を図ります。最終的には、自身の主張をレポートにまとめます。</p>						
関連する科目	<p>事前に「子ども教育入門ゼミ」「子ども教育プレゼミ」を受講しておくこと。</p> <p>履修後は「子ども教育専門ゼミⅡ」を受講すること。</p>						
授業の進め方と方法	<p>毎回の授業において、演習形式の授業を行います。1回の授業構成は次のとおりです。</p> <p>授業の前半では、各自が、課題に対する自身の考えを資料およびプレゼンテーションにより表現します。【知識・理解の獲得】</p> <p>後半ではグループディスカッション等にて、前半の学びを深め、さらに自身の問題意識とその立場について検討します。【汎用的技能の育成】【態度・志向性の育成】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>子ども教育専門ゼミⅠの目的 本ゼミが大学での学びにおいてどのような位置づけにあるのか、確認します。</li> <li>自身の興味・関心、問題意識を知る これまでに学んだ専門知識や経験をもとに、自身の関心や問題意識について考えます。</li> <li>文献紹介 自身の関心や問題意識に関する文献を収集し、紹介します。</li> <li>課題の設定 ①テーマの仮設定 自身の関心や問題意識をもとに、問いをたてます。</li> <li>文献の内容及び構造を読む ①概略的な知識を得る</li> <li>文献の内容及び構造を読む ②文献入手、構造の読み取り</li> <li>文献の内容及び構造を読む ③構造の可視化 自身の問いに関する図書や論文を収集し、概略的な知識を得るとともに、論文の構造を分析します。</li> <li>課題の設定 2:テーマの焦点化</li> <li>研究計画を立てる(レジュメ作成、発表及び討論) これまでの学びをもとに、問いを焦点化し、研究計画を立てます。</li> <li>先行研究を収集し、整理する ①体系的でまとまった情報収集</li> <li>先行研究を収集し、整理する ②資料の読み込み 「広く調べる」と「論点を絞り込むこと」を繰り返し、自身の主張を明確にします。</li> <li>調査・分析 ①構造の組み立て、アウトライン作成</li> <li>調査・分析 ②本文執筆 調べた情報や自身の知識をもとに、レポートの構造を組み立て、執筆します。</li> <li>最終報告 ①意見交換</li> <li>最終報告 ②まとめ レポートを資料として、プレゼンテーションにより自身の主張を表現します。 ディスカッションを通して、さらに論点を整理します。</li> </ol>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>文献の内容及び構造を読み取ることができる。</li> <li>先行研究の収集とその整理の方法について理解することができる。</li> <li>レジュメ作成、発表と討論の方法について理解することができる。</li> </ol> <p>【知識・技能の育成】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>先行研究の収集と整理、調査と分析、レポート作成、発表及び討論を通し、自身の問題意識を深めることができる。</li> </ol> <p>【汎用的技能の育成】【態度・志向性の育成】</p>						
授業時間外の学修	<p>課題に取り組むにあたって、自身の興味・関心や問題意識に関する情報や資料等を収集しまとめるようにしてください。</p> <p>授業後には、意見交換や自身の学びを振り返り、論点を整理してください。</p>						
課題に対するフィードバック	毎回のレジュメについては、授業時にコメントします。最終レポートについては、評価後、返却し解説します。	評価方法			学習への意欲的な取り組み(レジュメ作成の内容及び発表・討論への参加状況等)50点 最終レポート 50点		
テキスト	井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第2版』慶応義塾大学出版会、2013年。(1,200円＋税)						
参考書	必要に応じて図書、資料を紹介します。						
備考							

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育専門ゼミⅠ [Professional Seminar in Child Education I]				実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○	
科目コード	750114	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次		
教員氏名	野村 宗嗣				学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)			
授業概要	授業前半では、遊びを通して育まれる力といったものを、コミュニケーションと身体の動きの視点にてまとめてみる。遊びごとに要求されるコミュニケーションや身体の動きというのが、どのように子どもたちの成長に関係するのかを、ゼミ生にてディスカッションを行い、子どもたちの成長に必要な指導や支援といったものが、どのようなものかを共通理解していく。授業期間の後半については、各ゼミ生が、自分の興味ある事項から文献を選び、内容を理解するために、項目ごとを要約し、論じられている内容を、論の展開によって理解できる力を養う。								
関連する科目									
授業の進め方と方法	授業進行にあたっては、具体的な事例を基に視覚的な教材も活用しながら提示することで、提示された内容からゼミ生も、必要とされる情報を収集し、収集した内容を考察し、発表できうる力を育成する。また、授業後半では、文献の読み取りから、構成の展開、課題の読み取りができる力を養う。								
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:興味ある教育上の事柄について、意見交換 第3回:つまづきがあるとされる子どもについて、どのような事象がみられるのか、背景にはどのようなことがあるのかを、調べ発表する。 第4回:不器用をテーマに、どのような事例があるのかを、調べ発表する。 第5回:下校後や放課後の遊びから、運動動作の向上に関係すると考えられる遊びの一つを選び、遊びの概要と運動動作を視点に、調べ発表する。 第6回:発表にむけ、構成や展開をゼミ生間にて検討し、発表のスライドにそって内容を整理していく。 第7回:子どもの遊びについて、コミュニケーションと運動動作に視点を置き、発表する。 第8回:発表した遊びに関して、関係する文献から一つを選び、章ごとや内容の分かれているところごとに、内容を整理していく。 第9回:ゼミ生にて、選んだ文献について、その概要と論の展開を示し、発表する。 第10回:卒業論文のテーマについて構想を持ち寄り、意見交換する。 第11回:テーマ設定の理由、研究の方法と評価の仕方について、ゼミ生間で討論。 第12回:テーマ設定の理由、研究の方法と評価の仕方について、ゼミ生間で討論。 第13回:テーマ設定の理由、研究の方法と評価の仕方について、ゼミ生間で討論。 第14回:テーマ発表 第15回:まとめ								
授業の到達目標	・課題設定や情報の収集、文献検索の方法の他、機器等を用いた発表スキルを身につける。 ・子どもの発達や特別支援教育に関する興味・関心を高める。								
授業時間外の学修	[予習]毎回の課題提示に対して、事例や関係資料を収集し、課題に対する自分なりの見解や疑問点等をレポートを作成し、整理しておく。(1.5時間) [復習]ゼミ内での意見交換や討論を通して学んだ、課題解決のための手順や論点等をレポートを作成し整理しておく。(1.5時間)								
課題に対するフィードバック	課題に対する自分なりの見解や疑問点等を整理し、ゼミ内での意見交換や討論を通して、課題解決のための手順理解や論点整理を行う。			評価方法	以下3項に加え、意見交換や討論への参加態度から総合的に評価する。 ①要点整理のレポート:20% ②発表資料等の作成:60% ③課題レポート:20%				
テキスト	使用しない								
参考書	適宜、紹介								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育専門ゼミⅠ [Professional Seminar in Child Education I]			実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750114	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	山田 裕司			学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	<p>これまで学んできた教育学の専門的知識及び、子どもたちとの関わりを通して身につけ、感じたことを基に、教育学の知識をより深く学ぶ。特に、子どもと社会の関係や、教育的行為の成果の点検・評価に着目する。            専門ゼミⅠでは、自分の関心ある教育学のテーマを絞り込む前に、「課題発見力」や「主体性」、「創造性」を身につけるために、身近なテーマを基に調査研究を行う。これらの活動を通して、自分の関心のある複数のテーマを絞り込み、卒業研究に向けた資料収集に取りかかる。</p>						
関連する科目	子ども教育入門ゼミ、子ども教育プレゼミ、子ども教育専門ゼミⅡ、卒業研究						
授業の進め方と方法	<p>発表者が自分の関心あるテーマを選択し、そのテーマを取り巻く社会的環境や制度・政策等について事前に調べて、ゼミ当日に発表する。発表者以外は、発表者とは異なる視点からそのテーマを分析し、発表者と共にそのテーマについての知見を深める。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション:ゼミの目的と位置づけについて【概論】</li> <li>調査研究テーマの探求方法</li> <li>関心テーマの課題探求:発表者(A)、発表者(B)、発表者(C)、グループ討議</li> <li>関心テーマの課題探求:発表者(D)、発表者(E)、発表者(F)、グループ討議</li> <li>関心テーマの調査研究:発表者(A)、発表者(B)、発表者(C)、グループ討議</li> <li>関心テーマの調査研究:発表者(D)、発表者(E)、発表者(F)、グループ討議</li> <li>関心テーマのまとめ 前半は各自が関心のあるテーマを選択し、そのテーマを取り巻く社会的環境等について調べて発表するとともに、ゼミ生間で意見交換を行う。</li> <li>調査研究テーマの絞り込み方法と調査研究方法</li> <li>調査研究テーマの絞り込み:発表者(A)、発表者(B)、発表者(C)、グループ討議</li> <li>調査研究テーマの絞り込み:発表者(D)、発表者(E)、発表者(F)、グループ討議</li> <li>調査研究テーマの中間報告:発表者(A)、発表者(B)、発表者(C)、グループ討議</li> <li>調査研究テーマの中間報告:発表者(D)、発表者(E)、発表者(F)、グループ討議 卒業論文を見据えて、教育的課題をテーマとして、その課題の背景や課題の主要因について分析する視点を身につける。</li> <li>プレゼンテーション技法</li> <li>プレゼンテーション:発表者(A)、発表者(B)、発表者(C)</li> <li>プレゼンテーション:発表者(D)、発表者(E)、発表者(F) 伝えるプレゼンテーションの技法について学ぶ。 プレゼンテーションの技法を踏まえて、最終報告を作成する。</li> </ol>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>教育学の学際的知識を深めると共に、履修内容に基づいた調査研究を行う知識・スキルを身につける。</li> <li>自ら設定した課題を解決するためのプロセスを明確にし、実行するスキルを身につける。</li> </ol>						
授業時間外の学修	<p>授業にて報告するレポートの作成(予習)、および発表後に明らかとなった課題の解決(復習)            保育・教育に関する新聞記事・ニュース等のとりまとめ</p>						
課題に対する フィードバック	発表課題に対して、適時指導・助言する。	評価方法			以下の項目に基づいて評価します。  1) 学習意欲(授業中)－50点、  2) 関心テーマ及び調査研究テーマ報告－40点、 3) 最終報告－10点		
テキスト	必要に応じて指示します。						
参考書	必要に応じて指示します。						
備考							

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育専門ゼミⅠ [Professional Seminar in Child Education I]			実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	
科目コード	750114	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	酒井 喜八郎			学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	4年生の卒業論文に向けて、3年次のうちに、社会科教育、教育方法学、海外文献などの論文を幅広く購読する。毎回アサインメントとして推奨論文の購読とレジメ作成、発表が課される。このようなスタイルの論文演習を重点的に行う。同時に社会科教育、主に地理教育に必要なフィールドワークの基本調査法を学ぶ。また社会科授業設計論として、歴史学・地理学、社会学や経済学等の社会諸科学の書籍を読み概念を抽出する方法や、社会認識教育で重要な問いの分類論などを講義する。さらに希望者には、授業プロトコル分析についても講義する。						
関連する科目	教科教育法(社会)、社会						
授業の進め方と方法	授業概要に示したとおり、4年生の卒業論文作成に向けて、基礎的な文献、論文購読を中心に進める。受講生には、毎回のアサインメントとしての論文購読及び課題レポート発表が課される。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回～第6回 社会科授業設計論、及び、社会科授業分析の課題図書購読とレポート発表 第7回～15回 社会科授業設計、授業研究、カリキュラム研究などの基礎文献を読みレジメを作成し、ゼミで発表し、議論する。うち、1～2回程度ゼミで社会科フィールドワークを実施し、野外巡検を実施し、野外調査法を身に付ける。						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 4年生に向けて、基礎的な調査法や授業設計論、授業分析方法を身に付ける。</li> <li>2 自分なりのテーマを探究することができるようにする。</li> <li>3 ゼミで地域連携できるような活動を企画、実行できるようにする。</li> </ol>						
授業時間外の学修	・個人レポート課題の準備 ・グループレポート課題の準備						
課題に対するフィードバック	・レポートを相互評価する。		評価方法		・毎回のゼミへの取り組み・意欲態度、個人課題を総合的に評価する。		
テキスト	・岩田一彦(2001)『社会科授業の設計』明治図書 ・的場正美(1999)『授業分析の方法』黎明書房。						
参考書	・講義の中で社会科教育関係や教育方法学関係の資料や論文を適宜紹介し、アサインメントを出す。						
備考	・各受講生の意欲的・主体的な参加を期待します。						

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科	実務経験 教員担当	
科目名称 [英語名称]	子ども教育専門ゼミ I [Professional Seminar in Child Education I]			アクティブ ラーニング		学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)
科目コード	750114	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	瀬戸口 裕二			学位授与の方針 との関連		配当学年	DP1(2) DP2(2) DP3(5)
授業概要	<p>特別支援教育を専門的に研究していくための基礎的な力を養うことを目的とする。            文献や資料の収集や整理などの情報活用方法、論文の項立て構成や書き進め方を学ぶ中で課題の探求方法についても学んでいく。            学生自身が各自で課題を発見し、課題の解決に向けて調査及び文献研究を進めながら協議を進める。</p>						
関連する科目							
授業の進め方と方法							
授業計画	<p>第1回: 興味ある教育上の事柄について、意見交換            第2回: 発達に偏りがあるとされる子どもについて、どのような事象がみられるのか文献研究発表する。            第3回: 発達に偏りがあるとされる子どもについて、どのような改善策があるか文献研究発表する。            第4回: 発達に偏りがあるとされる子どもについて、質的研究について調べたことを発表する。            第5回: 発達に偏りがあるとされる子どもについて、量的研究について調べたことを発表する。            第6回: レジューメのまとめを学ぶとともに、各ゼミ生が原稿を整理する。            第7回: 効果的な発表に仕方を学ぶためにプレゼンテーションソフトを使ってまとめる。            第8回 仮の卒論課題の設定 2: テーマの焦点化            第9回 研究計画を立てる(レジューメ作成、発表及び討論)            第10回 先行研究を収集し、体系的でまとまった情報収集を行う。            第11回 先行研究を収集し、資料の読み込む。            第12回 調査・分析 構造の組み立て、アウトライン作成            第13回 調査・分析 本文執筆する。            第14回 報告 ゼミ生間での意見交換            第15回 まとめ</p>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献の内容を読み取ることができる。</li> <li>2. 先行研究をもとに研究の方法について学ぶ。</li> <li>3. レジューメ作成、発表と討論の方法について学ぶ。</li> <li>4. 先行研究の収集と整理、調査と分析、レジューメ作成、発表及び討論を通し、自身の問題意識を深める</li> </ol>						
授業時間外の学修	<p>研究テーマの探究に向けて、課題意識を持ちながら文献資料を最低1時間は読み込み、自主的に取り組む姿勢でゼミにのぞむこと。</p>						
課題に対する フィードバック				評価方法			
テキスト	ゼミ前に、参考文献やまとめを準備すること。						
参考書							
備考							

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科		
科目名称 [英語名称]	子ども教育専門ゼミⅠ [Professional Seminar in Child Education I]			実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750114	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	田中 直美			学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	<p>「子ども教育専門ゼミⅡ」「卒業研究」に向けた準備段階として、みずからの関心や問題意識を明確にし、研究方法を知る。  ①みずからの関心・問題意識をあきらかにし、②テキストを収集・読解、③レジュメを作成、④発表と対話、を通して、課題探求能力を高める。</p>						
関連する科目	「子ども教育プレゼミ」「子ども教育専門ゼミⅡ」						
授業の進め方と方法	①自分の関心・問題意識を明らかにする。 ②先行研究の収集と読解をおこなう。 ③人間形成論にかかわるテキストを講読し、そこに書かれた内容を正確に理解しレジュメにまとめる。 ④レジュメの発表を通して、自身の研究内容を著者の見解と比較・検討する。						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:自分の関心・問題意識を明らかにする。(1) 第3回:自分の関心・問題意識を明らかにする。(2) 第4回:自分の関心・問題意識を明らかにする。(3) 第5回:先行研究の収集・整理(1) 第6回:先行研究の収集・整理(2) 第7回:先行研究の収集・整理(3) 第8回:自分の関心・問題意識の再確認と修正(1) 第9回:自分の関心・問題意識の再確認と修正(2) 第10回:テキストの講読とレジュメの検討(1) 第11回:テキストの講読とレジュメの検討(2) 第12回:テキストの講読とレジュメの検討(3) 第13回:テキストの講読とレジュメの検討(4) 第14回:テキストの講読とレジュメの検討(5) 第15回:テキストの講読とレジュメの検討(6)						
授業の到達目標	1. 先行研究の収集とその整理の方法について理解することができる。 2. 研究テーマを設定し、正確にテキストの読解ができる。 3. レジュメ作成、発表と討論の方法について理解することができる。						
授業時間外の学修	自分の関心・問題意識はどこにあるのかをつねに意識しながらテキストを探し、読む。						
課題に対する フィードバック	毎回の授業でコメントする	評価方法		①発表資料(レジュメ) ②参加態度(発言)			
テキスト	なし						
参考書	それぞれのテーマにあわせて適宜紹介します。						
備考							